

Beyond 2020+1 ハイパフォーマンス スポーツからライフパフォーマンスへ

赤間高雄*1, 河野一郎*2

本シンポジウムは、東京 2020 大会の自国開催に向けて得られたハイパフォーマンスサポートの成果を、大会後に一般国民の生活の質の向上に還元することの意義を明確にするために、(独) 日本スポーツ振興センターハイパフォーマンススポーツセンター長の勝田隆先生と (独) 日本スポーツ振興センターハイパフォーマンススポーツセンター国立スポーツ科学センター長の久木留毅先生をシンポジストとして討論形式で行った。

はじめに、河野座長が東京 2020 大会の総括として、1 年延期で無観客という厳しい状況ではあったが、競技は予定どおりに開催できたことに意義があり、アスリートにとってもよかった。そして、コロナ禍の開催で様々な困難な状況にあったが、アスリートに対する医療は完全に近い形で行われた。この実績から得たことを将来に残していくことが重要であるとの発言があった。

つぎに、東京 2020 大会で史上最高の活躍をした日本選手団をサポートしたハイパフォーマンススポーツセンター (HPSC) について、勝田 HPSC センター長から概要の紹介がされた。つづいて、久木留国立スポーツ科学センター (JISS) センター長から、東京 2020 大会のコロナ禍での 1 年延期に伴う日本代表選手に対するサポートについて具体的な紹介があった。

さらに、ハイパフォーマンススポーツの定義について、久木留 JISS センター長は「世界一を競うスポーツ」であると説明した。河野座長は、ライフパフォーマンスとは一般人の日常生活におけるパフォーマンスであり、ヒューマンパフォーマンス

とも言えると話した。ハイパフォーマンススポーツのサポートで得られた知見 (科学的エビデンスに基づくもの) を一般国民が日常生活で持つ課題の解決に役立てることがライフパフォーマンス (ヒューマンパフォーマンス) 向上に生かすということとの説明がされた。

久木留 JISS センター長から、ハイパフォーマンススポーツのサポートで得られた知見をライフパフォーマンス向上へ生かす 1 つの試みとして、HPSC において科学的エビデンスに基づいた成果をパッケージ化して、地域コミュニティに利用してもらい、ネットワーク化している。その例として、体力測定がある、との紹介があった。さらに、ハイパフォーマンススポーツのサポートで得られた知見をライフパフォーマンス向上に生かしていくため、コロナ禍の状況での生かし方についても意見交換された。勝田 HPSC センター長は、コロナ禍において「情報」の重要性を再認識したと話した。河野座長は、アスリートがうけたコロナ禍の影響と一般国民がうけたコロナ禍の影響との共通部分を考えると、コロナ禍でハイパフォーマンススポーツのサポートで得られた知見をライフパフォーマンス向上に生かしていくヒントがあるのではないかと、さらに、アスリートの持つ課題と一般国民の持つ課題との共通性を考えていくことが必要であると話した。久木留 JISS センター長は、アスリートと一般国民の共通したコロナ禍の影響は「それまでの日常とは異なる経験」であると話した。

最後に、河野座長が、スポーツの発展に伴って得られた知見を社会が直面している課題の解決に生かすことがスポーツ医科学や臨床スポーツ医学の発展につながるとまとめ、本シンポジウムを終了した。

*1 早稲田大学スポーツ科学学術院

*2 (一社) 日本スポーツフェアネス推進機構